

Strix 7 : 267- (1988)

コウライアイサの越冬記録

伊藤恭博¹

コウライアイサ *Mergus squamatus* はソ連ウスリー地方から中国東北地方にかけて繁殖し、中国各地や朝鮮半島などで越冬するが、越冬地での詳しい生態は不明とされていた(日本野鳥の会 1986)。本種を1986年から1988年にかけて岐阜県羽島郡川島町において観察することができたので報告する。

この報告を作成するのにあたり、写真を提供していただいた伊藤良昭氏、熊崎詔之氏に厚くお礼申し上げる。

観 察 地

コウライアイサを観察した主な地域は、岐阜県羽島郡川島町と同各務原市との間の木曾川本流で、河口から約50kmの中流域にあたる。川幅は場所により約500メートルあり、流量が多く流れははやい。川底及び河川敷は直径10~30cmの礫がおおっており、部分的にアシ等の草やヤナギの灌木がはえている。この地域は通称「川島」と呼ばれており、以下この報告においても川島とする。

越冬記録

○コウライアイサの記録は1986年2月2日のものが最初であるが、この記録以前にコウライアイサ(いずれも雄)らしきアイサ類を観察しているので報告する。

a) 1984年12月1日

川島の木曾川本流の中州でやすんでいるアイサ類雄1羽を観察。冠羽があるがウミアイサのように胸が赤くなく不明種として記録した。

b) 1985年12月25日

川島の木曾川本流でカワアイサ約10羽の群れの中、冠羽があり胸の白いアイサ類を1羽観察した。

c) 1986年1月15日

ガン・カモ・ハクチョウ類一斉調査のおり、川島の木曾川本流でカワアイサ8羽と、冠羽があり胸の白いアイサ類を観察した。

以上の記録は写真はなく1986年2月2日以降の記録から、b)、c)の観察時には雌もいた可能性がある。

1988年12月15日受理

1. 〒501-61 岐阜県羽島郡岐南町平島3丁目41番地

○1986年の記録

1986年2月2日, コウライアイサ雄1羽雌1羽が川島町小網の木曾川の中州で休んでいるのを観察した. ほぼカワアイサの10羽前後の群れと行動を共にしていたが, 完全な同一行動はせず, ときおり, 群を離れたつがいのみでの行動がみられた. 4月5日の終認まで一日の行動はほとんど一定しており, 以下のとおりであった.

日の出直前の時間に川岸から20m以内, 水深50cm以下の比較的流れのゆるやかな場所で約30分採餌した. 餌となる動物は10cmから20cm位の大きさの魚類で, 特に淡水ハゼ類を採餌するのが多く観察された. 採餌の時間は長くとも1時間をこすことはなかった. 採餌には潜水して行なうものと, 頭の前部を水に入れ水中を覗きながら行なうもの(図1)二通りが観察された. これらの採餌方法はカワアイサにもみられた. 潜水して採餌する場合の潜水時間は10~15秒であった. 朝のこの採餌はコウライアイサのつがいのみでの行動で, カワアイサが加わることはなかった.

採餌を終えたのちは中州の川岸に移動し, カワアイサの群と日中の行動をいっしょにする時間が多く, 日中は採餌と中州での休憩に大部分を費やしていた. 日中のおもな採餌場所は川の幅が狭く深い流れの速い場所と幅の広い瀬の部分であった. 採餌は日没の前30分から日没の間にも瀬の部分ででさかんにみられた.

日中はカワアイサの群れにはいっていたが, ときおりコウライアイサが口を開けカワアイサに突進するという行動がみられた. この威嚇行動はカワアイサ以外のカモ類に対しても行ない, カワアイサに比べ攻撃的といえた. この行動は雄にも雌にもみられ, 1987年, 1988年に越冬した個体にもみられた. この年のつがいにおいて2月初めから終認までの間に頻繁に交尾が観察された. 2月22日には1日に3回の交尾が観察されたが, 2月以降の越冬中, ほぼ毎日交尾をしていたと考えられる. 雄の求愛とみられるディスプレイはカワアイサとよく似て, 通常姿勢からくちばしを水面から垂直に上げることを繰り返すものであるが(図2), このディスプレイをせずに交尾に至る場合があり, 交尾とのはっきりした関係はわからなかった.



図1. 1986年のコウライアイサ雄(右)と雌(左) コウライアイサは潜水をする採餌のほか, この写真の雄のように首のみを水面に入れる採餌も行なう. 雌の翼上面の2本線に注意. (1986年2月2日, 伊藤恭博撮影)

Fig. 1. Male (right) and female (left) Chinese Mergansers in 1986.

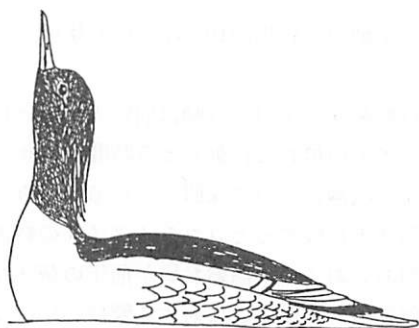


図2. コウライアイサの求愛とみられるディスプレイ。
Fig. 2. Courtship display of the Chinese Merganser.

コウライアイサは興奮した時に首をまっすぐにのぼすほか、カワアイサにもみられるが額の部分をふくらませ、冠羽を扇型にひろげる行動がみられた(図3)。また、緊急の時以外に飛び立つ場合、首をまっすぐにのぼすのが観察された。これは他の個体に対しての飛び立つ合図になっているようである。これらの行動はこの年以降観察されたコウライアイサにも共通してみられた。

この年のコウライアイサに限らず警戒心は概してカワアイサよりも強かった。

日中の行動範囲は上流は各務原市前戸西町、下流は川島町松倉町までの間約4 kmに限られていたが、特に川島町小網の約2 kmの範囲から離れることはほとんどなく移動距離は短い。また川幅が広い場所で約500mであることから普段の行動面積も1 km²を超えることはないといえる。このことは1987年、1988年の川島の個体も同様であった。なお夜間の行動は観察の装備の不足のため不明である。この年の終認は4月5日で、カワアイサも同日の9羽が終認となっている。

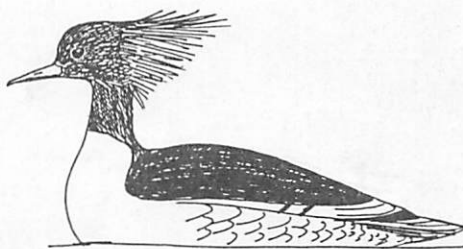


図3. コウライアイサが興奮した場合の特徴として、首をまっすぐに伸ばし、額の部分を膨らませ、冠羽をたててひろげるのがみられた。

Fig. 3. An excited posture of the Chinese Merganser.

○1987年の記録

1987年1月24日、川島町小網の木曾川の1986年と同じ場所でコウライアイサ雌1羽を確認した。

このコウライアイサの行動範囲、1日の行動は前年の個体とほとんど同じであった。ただ1羽のみのためかカワアイサの群れと行動をとる時間が前年の個体に比べ多かったが、人のいない場合は日中も岸の浅瀬に近づき採餌しているのがみられた。

この個体は前年の雌の個体と比較するとコウライアイサの特徴である脇腹のうろこ模様が薄く、翼の上面の小雨おおいおよび中雨おおいが前年の個体が白いのに比べ灰色であるといった違いがあり別の個体といえる。人に対する警戒心は前年の個体に比べより強かった。この年の終認は4月4日であった。

○1987年～1988年の記録

1987年11月14日川島町小網の木曾川本流でコウライアイサ雌タイプらしいアイサ類を2羽みるが確認できなかった。その後11月19日コウライアイサであることを確認した(図4)。また、11月29日に岐阜県支部の桑原久男氏より3羽のコウライアイサをみたとの情報ほか同様の情報が数件あったが、単独での目撃であったり、2羽と1羽が別々の場所での目撃であったりで確認できなかったが、1988年1月15日のガン・カモ・ハクチョウ類調査の



図4. 1987～1988年越冬のコウライアイサ雄若鳥2羽(1987年11月29日, 熊崎詔之撮影)

Fig. 4. Juvenile male Chinese Mergansers in 1987 and 1988.



図5. 1987～1988年越冬コウライアイサ雄若鳥2羽と雌(1988年3月上旬, 伊藤良昭撮影)

Fig. 5. Female (right) and juvenile male (left two) Chinese Mergansers in 1987 and 1988.

ときに同時に3羽のコウライアイサを岐阜県支部の調査員により確認できた(伊藤・桑原・熊崎・服部一孝)。

1月16日、3羽のコウライアイサのうち2羽が脇腹の色が白っぽくなっているのがわかり、雄であるのが確認できた。またこれ以後伊藤良昭氏が撮影した写真(図5)により先に確認した2羽のコウライアイサが両方とも雄であったことが判明した。2羽の雄の換羽は2月には完全に雄と判断できるほどにすすんだが、終認の4月11日になっても1986年の雄の状態までにはならずかなり若い個体であると考えられた。また、換羽は頭部では目の回りから次第にすすみ、同時に脇腹が灰色から白くなった。

コウライアイサは1月から2月までは3羽で行動することが多かったが、3月中旬以降は雌と雄2羽がそれぞれ別のカワアイサの群れに入り行動することもみられた。雄2羽が雌に対し、それぞれがくちばしを上あげるディスプレイを行なっているのを3月5日、19日に観察されているが、いずれも交尾にいたらず終認まで交尾を確認できなかった。この冬のコウライアイサの終認は雌が3月19日、雄2羽が4月11日で、つがいの形成にはいたっていない。また3月12日以降カワアイサの数は減少しており、このことからこの年の雌は雄2羽の所属するカワアイサの群れとは別の群れと渡来した可能性がある。

川島のコウライアイサとは別に、1月30日石黒龍二氏より岐阜県海津郡海津町と愛知県中島郡八開村の木曾川でコウライアイサ雄1羽を観察したとの連絡があった。2月11日に現地では伊藤がカワアイサ25羽の群れのなかにコウライアイサ雄1羽を観察することができた。川島のコウライアイサに比べ冠羽が長く、体色も1986年の雄に近く完全な成鳥と判断でき、川島のものと別個体と断定できた。

確認場所は東海大橋の下流約1kmで河口から約20kmにあり、川底及び河川敷は砂及び土質で水の流量が多く川島に比べややゆったりとした流れの環境である。ここのコウライアイサは木曾川の水量が減ったためか、カワアイサの群れとともに以後確認できなかった。

1987年～1988年に越冬したコウライアイサはこれ以降1988年の個体と表記する。

○各年ごとによるコウライアイサの特徴

1986年以降3年続けてコウライアイサが越冬したが、各年ごとに外見上にはっきりとした特徴がみられたので報告する。

1986年の個体を基準として以後の個体を比較する。雌については、1986年の個体に比べ1987年は脇腹のウロコ模様が薄いこと、及び翼の上面の小雨おおい、中雨おおいが1986年のものが白かったのに対し、1987年の個体は背と同色の灰褐色であったことがめだつた違いであった。このため1987年の個体は飛翔時にはウミアイサとの識別が困難であった。1988年に越冬した雌は脇腹のウロコ模様は1987年の個体に比べはっきりとしていたが、翼の上面の小雨おおい、中雨おおいは1987年の個体より薄い灰色であった。(図1、図6、図7)。

雄については、1988年の越冬個体は1月中旬から換羽したこと及び4月11日の終認においても完全に換羽しきっていないことからかなり若い個体であるといえる。

また、翼の上面のパターンについても雌と同様上面の小雨おおい、中雨おおいは灰色であった。1988年の越冬個体の場合換羽前の雄と雌との識別は非常に困難であったが、換羽前の雄は背と目の回りがやや黒っぽいことが特徴であった。



図6. 1987年のコウライアイサ雌

Fig. 6. A female Chinese Merganser in 1987.

翼上面の線は1本しかみえず，中雨おおい，小雨おおいは灰色である。
(1987年4月3日，伊藤恭博撮影)



図7. 1988年のコウライアイサ雌(左)と雄(右)

Fig. 7. Male (right) and female (left) Chinese Mergansers in 1988.

中雨おおい，小雨おおいは完全には白くなっていない。(1988年3月上旬，
伊藤良昭撮影)

○コウライアイサと他のアイサ類との識別について

川島にはコウライアイサの他，カワアイサ，ミコアイサ，たいへん稀にはあるがウミアイサが冬季に観察されている。このうちミコアイサはコウライアイサとの識別は容易であるが他のアイサ類，特に雌の識別は難しい場合があるのでそのポイントを記載する。

雄の成鳥の場合，カワアイサとの識別点は大きさがひとまわり小さくマガモ大であること，長い冠羽があることで識別できる。ウミアイサとは大きさがほぼ同じで冠羽も有するが冠羽はコウライアイサがより長いこと，胸がコウライアイサは白く，脇腹にウロコ模様があることで識別できる。

雌の場合，胴と頭部の色はカワアイサとよく似ているが，雄と同様大きさがひとまわり小さくマガモ大であること，カワアイサには喉の白斑がはっきりしていること，頭部の茶褐色と胴の灰色の境界がカワアイサでははっきりとしているが，コウライアイサは不鮮明であることで識別できる。カワアイサ雌は個体によっては脇腹にウロコ模様らしいものが見られるものがあるが，コウライアイサのウロコ模様ははるかに細かく鮮明である。ウミアイサとはほぼ同大であるが，胴と頭部の色はウミアイサは褐色がかっており，全体に赤っぽい。また雄も同様であるがウミアイサは背が丸く，くちばしがやや細く上にそっており

鼻孔の位置がくちばしの基部に近いのに対し、コウライアイサはくちばしのほぼ中央にあること、ウミアイサは目が赤いことが相違点である。

このほか他のアイサ類との雄雌共通にいえる外観上の相違は、脇腹のウロコ模様のほかにコウライアイサのくちばしの先端の色が白黄色なのに対し他のアイサ類は黒いことである。飛翔時の翼のパターンは成鳥の場合は次列風切及び雨おおいが白く、次列風切及び大雨おおいのそれぞれの基部が黒くなっているため翼に二本の黒い線となってみえる。これに対しウミアイサの雌は中雨おおい小雨おおいが褐色のため翼に一本の黒い線があるようにみえる。ただしコウライアイサの若鳥は翼のパターンがウミアイサの雌と非常によく似ているため飛翔時の識別は困難である。

考 察

翼の上面のパターンにより1987年の雌個体はかなり若い個体であり、1986年の雌個体は完全な成鳥、1988年の雌個体は両年の中間であると考えられ、1987年と1988年の雌個体は同一個体である可能性がある。雄についても1988年の個体は若い個体であり、1986年の雄は成鳥であると考えられる。このことより、コウライアイサの若い個体は翼の上面の上面のパターンはウミアイサの雌成鳥に似ており、小雨おおい、中雨おおいは灰色であること、脇腹のウロコ模様は薄いことが特徴であるといえる。また、雄の若い個体の換羽はカワアイサ同様かなり遅れるようである。

コウライアイサが1986年以来、おそらくそれ以前から川島で越冬した理由としてカワアイサとの関係が考えられる。コウライアイサは越冬期間中コウライアイサのみでの行動も観察されたが、カワアイサとは完全に別行動をとることはなく多くの時間カワアイサの群れに加わっていた。これは海津町のコウライアイサがカワアイサと行動しており、カワアイサの群れと一緒にいなくなったことからみえる。また、川島での終認日はこの2種はほぼ一致している。観察上コウライアイサはカワアイサによく似た越冬生活をしており、生活する環境もウミアイサが好むような流れのゆったりとした水面よりもカワアイサの好む流れの速い川を好む傾向がある。さらにディスプレイや興奮した時の状態がカワアイサと共通しており、採餌も日中は同じ場所で行なうのが観察されている。また、両種の繁殖地の分布は重複していることからカワアイサの繁殖地に近い越冬のための渡りの中継地でコウライアイサが群れに加わっている可能性がある。逆に川島で越冬するカワアイサはコウライアイサの繁殖地であるウスリー地方又は中国東北地方から渡来している可能性がある。以上のことより今後コウライアイサはカワアイサの越冬地で意外とみつかるといえる。

要 約

1. コウライアイサは岐阜県羽島郡川島町の木曾川において1986年2月に雄1羽雌1羽、1987年1月に雌1羽、1987年11月に若い雄2羽と雌1羽が確認され越冬した。岐阜県海津郡海津町の木曾川においては1988年1月に雄1羽が観察された。
2. コウライアイサの越冬地での生態はカワアイサによく似ている。
3. コウライアイサは求愛ディスプレイやその他の行動にカワアイサと共通するものがある。
4. コウライアイサの翼上面のパターンは若い個体と成鳥とは異なる。飛翔時の翼上面のパター

ンは若いコウライアイサ雌とウミアイサ雌とはよく似ており、識別は困難である。また、コウライアイサの雌と若い雄との識別は水面上にいる場合、飛翔時とも困難である。

5. 1986年以降3年間に川島で越冬したコウライアイサは1987年と1988年の雌をのぞいては別個体であった。

文 献

- 日本野鳥の会. 1986. 野鳥識別ノート. 野鳥51 (2). 6.
- Madge, S. and Burn, H. 1987. Waterfowl. pp. 114, 279-280. Houghton Mifflin Company, Boston.

Winter life of the Chinese Merganser *Mergus squamatus*

Yasuhiro Ito¹

1. In Kiso River in Kawashima-cho, Hashima-gun, Gifu-Ken, one male and one female Chinese Mergansers (*Mergus squamatus*) were observed in February 1986, one female Chinese Merganser was observed in January 1987, and two immature males and one female passed the winter of 1987. In the Kiso River in Kaizu-cho, Kaizu-gun, Gifu-Ken, one male was observed in January 1988.
2. The ecology of the Chinese Merganser was similar to that of the Common Merganser (*M. merganser*).
3. Chinese Mergansers and Common Mergansers were similar in the courtship display and some other behaviors.
4. The upper wing patterns of immature and adult Chinese Mergansers were different. Upper wing pattern of immature and adult females were very similar. In particular it was very difficult to distinguish them when they were flying and to distinguish female Chinese Mergansers from immature males.
5. The Chinese Mergansers which have been observed in Kawasima since 1986 seem to be different individuals in each winter. But there was a possibility that the same female spent the winters of 1987 and 1988.

1. 3-41 Heijima, Ginan-cho, Hashima-gun, Gifu-ken 501-61